3 5	お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
	渦元 幸子	女 性	79歳	13歳	中宇利

福岡県八女郡矢部高等小学校高等科1年(今の中学1年)

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

父と二人で川で砂金をとっていた。上流に当時日本一の鯛生金山があり、そこ から流れてくる金を木製の道具ですくい、小遣いかせぎをしていた。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

家の隣のお店にラジオがあり、玉音放送があると聞いて近所の人たちといっ しょに聞いた。聞き取りにくくてよく分からなかったが、日本が負けたというこ とは分かった。

- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子 これで爆撃がなくなると思い、ほっとした。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「食べ物がなかった」

私の家は、父がぜんそくで満足に働けず、母も病気で寝たり起きたりで、子ど もが3姉妹の本当に貧しい家でした。食べものには、本当に苦労しました。田畑 はほんの少ししかなく、配給が頼りでしたが、1ヶ月にお米が3升か4升で、家 族5人が食べていくにはあまりにも少なかったです。麦も少なく、いつもお腹を すかせていました。父は、着るものなどを食べるものに交換してもらっていまし た。とても苦労したようです。

戦争中、学校に行く時のお弁当は、おかゆと漬 け物だけでした。もうそう竹の竹筒が弁当箱で, その中にごはんを入れました。お米はほんの少し で、ジャガイモや大根などの野菜などが入った雑炊 のようなものでした。

服も靴もなくて,手製のわらぞうりをはいて学 校へ行きました。わらぞうりや足袋は、夜中に、 父が作ってくれたものでした。学校で運動靴の配 給もありましたが、クラスで1足か2足で、くじ 引きだったのでなかなか当たりませんでした。

その他, 小学校上級生の子どもたちは, 田植え, 稲刈りの手伝いをしに行ったことや、飛行機の音 ▲ 配給の様子(昭和の歴史集英社より) がすると、爆弾が落ちてきそうで怖かったことを思い出します。



私は戦争時代、食べ物のことで本当につらくて情けない思いをしました。こんな ことが二度とないように、戦争だけは絶対にやってはいけないと思います。

戦時中の生活の様子



▲ **託児所の様子** 昭和18年頃 (富岡小アルバムより)

育た。おは のように託児所が設置され けは への勤労を義務づけた。昭和十八年には、ける保育所の開設を駆ける保育所の開設を駆ける、明和六年(一九1 、八名学区でな子学生の託児 ・学生の託児氏のようにな っていた。 所よな 期

写保つに政

もな夫 け のほれと ば老の がり大黒 りません勝つならなかった。と い生活を強 き時時に がいら はの知れ、 子 の れた。 のど仕残 スも事 さ ロたをれ



▲ 留守家族 昭和18年 豊橋市大崎町 「東三河の 100 年」より

国民学校での供出と配給

(新城地方教育百年史より)

- 供出したもの 昭和17・18年当時 桑の皮 (繊維), 野生 苧 麻 (ラミー, からむし=繊維原料), どんぐり (アルコー ル, 家畜飼料), 茶の実(茶油), ひまわり種子(食用油), 干し草など
- 配給されたもの 学童服, ゴム底布靴, 靴下, ズロース, 運動シャツ, 運動ズボン, 和傘, コンパス, クレヨン、パレット、絵の具、彫刻刀、竹製ものさしなど